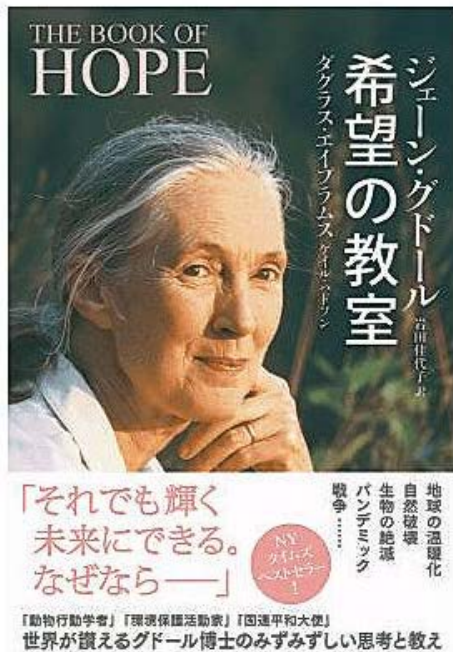


私の本棚

▶「希望の教室」(ジェーン・グドール/ダグラス・エイブラムス著、海と月社)

ジェーン・グドールといえば、1960年代からタンザニアの森でチンパンジーを研究、数々の発見により動物と人間の関係を変えてきた動物行動学者だ。その後、自然環境の保護活動を世界的に続けている。本書では気候変動、自然破壊、パンデミ



アクサ生命保険社長

安瀨 聖司氏

ック、戦争など問題だらけの「暗い時代」にどうすれば希望を持てるのかという疑問にまっすぐに答えてくれる。

まず「希望」とは何かというところからジェーンとダグとの対談形式で話は始まる。一般的な見方とは違い「希望とは自分にできることを全部やって、うまくいくようにしようとする決意」であり、しかも「何か行動を起こすこと」だと言う。

この積極的な希望の根拠として、人間の知力、自然の回復力、若者の力、そして人間の不屈の精神力の4つが挙げられ、その意味や、それにまつわる著者の具体的な逸話が語られる一章は、本書のハイライトであり、じっくりと読んで頂きたい。著者は自然界と人間をつなぎ直してくれる存在で、「どんなに闇が深くても私たちの行動が光を生む」という言葉には、決意と底知れぬエネルギーを感じ、これこそ希望だと頷いた。